

風穴の交流報告と今後の活用の考察

嘉藤 剛

今年も涼しくて熱いイベントに

今年の夏も涼しくて熱いイベントの中にいた。第3回風穴小屋サミット in 上田である。片道10時間のバス旅、八雲風穴関係者など19名の熱意あふれる人々との強行軍であった。

正直3回よく続いていると思う。これは地元の宝物を大切にしたいという想いによるものだ。風穴サミットの最中、すでに4回目の発表もなされた。同じ長野県小諸市だそうだ。上田市の隣で、第二次上田合戦で徳川秀忠が陣を引いた場所である。話を戻そう、今回の舞台は長野県上田市別所温泉という初めて聞く地名であった。別所温泉が地名という面白いところである。この別所温泉であるが、意外な島根との縁があった。平安時代、清少納言が書いた枕草子に日本三名泉として「湯は七栗の湯、有馬の湯、玉造の湯」との記載があるらしい。玉造の湯とは、温泉総選挙でセンターを獲得した島根県の玉造温泉のことである、この中の七栗の湯が上田市の別所温泉である（諸説あり）とのことで、いにしえからの因縁を感じる。そんな舞台で行われた風穴小屋サミットであるが、過去最高の300名を超える熱心な人々が集う熱い大会となった。



写真1 全国風穴サミット会場
皆さん熱心に聴講されていた。

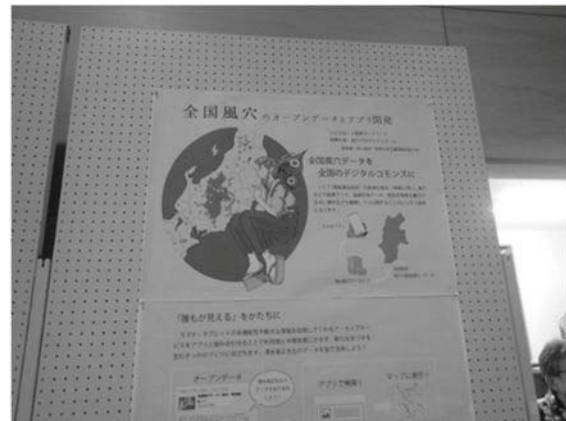


写真2 会場に貼られたポスター
会場中に掲載されていた。

やはり、信州付近は風穴どころである。風穴の現状や、風穴の利用法や活用方法に加え、小学生による夏休みの研究発表など熱心な話がなされ、風穴が身近なところにある人々が多いことが感じられました。

風穴と風穴を取り巻く文化遺産の見学

風穴が活躍していた時代のおもな産業はやはり養蚕である。上田市にはその遺構が残されていた。倉澤運平さんという養蚕に尽力された方の蚕屋を訪れた。そこでは、蚕を風穴とともに量産するための知恵と工夫を垣間見ることができた。

部屋を温室にするために地階でまきを炊き、温熱を上階に送る今でいう「床暖房」のシステムが構築されている。（写真4・5）

地下室は蚕の餌となる桑の葉の保存場所である。天井部分の木は一度焼かれることで腐食防止がなされている。（写真6）



写真3 倉澤運平氏の蚕屋跡
温泉街の近傍に残存する。



写真4 蚕屋地下の暖房装置
ここで火を焚いて温風を送る。



写真5 蚕屋の養殖部屋
格子部から温風が出る。



写真6 蚕屋地下の一室
蚕の餌となる桑の葉を保存。

このような養蚕が行われていた施設が上田市には残存しており、風穴などの文化を物語として伝えるうえで非常に重要であるなど感じた。

続いて蚕の卵が保存されていた別所氷沢風穴へ。

倉澤運平氏の蚕屋から直線距離で 1.2 km ほど山へ登った別所氷沢風穴へは近くまでは車で行けました。(写真 7) そこから階段(写真 8) 山道(写真 9) を登り風穴へそこには露天の風穴跡がありました。(写真 10) 数か所あったうちの 1 つのようです。温度は風穴の上で 18.6℃(写真 11) 風穴内で 8.0℃(写真 12) とやはり寒い。



写真 7 別所氷沢風穴の案内板



写真 8 別所氷沢風穴の順路
急な階段を登る。



写真 9 別所氷沢風穴の順路
さらに坂道を登る。



写真 10 別所氷沢風穴
露天の雑石積みである。



写真 11 風穴の直上の温度
18.6℃この日は涼しかった。

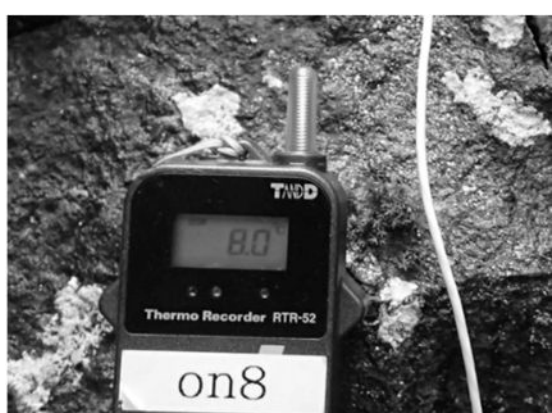


写真 12 風穴内の温度
8.0℃ 3.0m ほど地下で-10℃

八雲風穴ならではの活用法

八雲風穴の関係者の方々も移動のバス内で今後の保存・振興について考えを巡らせておられた。

今回の風穴サミットにおいて自然の冷風が、動・植物に非常に良い影響を及ぼすという報告に注目されていた。冷温保存倉庫としての利用である。しかし、今の風穴小屋の規模では難しく、大きなスペースと交通の利便性も必要であると感じるため、場所については選定が必要であろう。

八雲風穴の有効的な活用法を考察するに際し、いままで私が訪れた風穴を比較し、八雲風穴の強みを再確認してみた。

表 1 風穴の特徴比較表

	八雲風穴	第1回目 鷹狩風穴	第3回目 別所風穴	津和野町 青野山風穴
施設の状態	◎見学小屋	○小屋	△露天	△C o n 囲い
交通アクセス	◎徒歩1分	△徒歩10分	△徒歩10分	○道路沿い
周辺の風穴関連施設	△発掘中	○近隣に風穴あり	◎養蚕施設あり	△関連施設なし
見学のしやすさ	常時可能箇所あり	一般見学不可	常時可能	常時可能

八雲風穴の一番のストロングポイントはアクセスの良さであろう。やはり車を降りて徒歩ですぐに風穴見学ができるような場所は他には見られない。しかも小屋の形として一般の人に開放されている施設も珍しい。さらには、西日本にはあまり現存しておらず、貴重であることも挙げられる。(風穴小屋マップ参照) その一方で、貴重がゆえに知名度が低いこと、風穴小屋内部の公開期間が6月～9月上旬までと短いことが挙げられる。



写真13 八雲風穴小屋の入口



写真14 八雲風穴の露天風穴

駐車場から徒歩1分ほどで着く。こゝ小屋の外の常時見学可能箇所。

り誰でも風穴体験できる場所ではない。さらには鷹狩風穴は一般に公開されておらず、別所氷沢風穴は無人である。一方、八雲風穴は近くに売店があり、おもてなしも可能である。



写真 15 鷹狩風穴への移動
山道を 10 分ほど徒歩移動。



写真 16 鷹狩風穴
日本酒が貯蔵され未公開。

以上のことから八雲風穴は、現在そのまま見学施設としての利用法が適しているのではないかと考える。今後訪問者を増やすために、古くて新しくエコな風穴現象を新たな切り口でPRする必要がある。

また風穴現象として起こる空気の流れ（暖かい空気が軽く上昇し、冷たい空気は重く下降する）は自然現象の基本であり、風穴が理科教材としても利用できるのと考え。関係者の方々が思案されていた食品の冷温貯蔵庫としての利用を考えた場合、その場所としては、旧大社高校佐田分校グラウンド裏の風穴現象箇所が場所・規模の点で適当ではないかと考える。



図 1 全国風穴小屋マップ（抜粋）

八雲風穴は、西日本では現存する貴重な風穴小屋である。今後も風穴小屋サミットなどの同じ志を持った人々が集うイベントは、振興事業を継続していく上で重要であると改めて感じた。それは対象がマニアックであるほどその重さは増すと感じた。

それに加えこのようなイベントは周辺への旅行も楽しみとなる。今回の上田市も平成 28 年の大河ドラマ「真田丸」の舞台の一つであり、それも楽しみとなり上田城址にも訪れることができた。次に行きたい風穴と関連のある舞台は世界遺産である荒船風穴。荒船風穴のある群馬県の方に次々回の開催をリクエストしてしまいました。

地域振興を一か所単独で進めるにはその場所に大きな魅力が必要である。しかし、風穴はまだまだマニアックなものであり、地域振興を続けていくには他所他県の同じ志を持った人々との連携が必要ではないかと感じた。3 年前に始まった風穴小屋サミットがここまで続いているのは、1 回目の大町市の情熱が種火となり、その種火に 2 回目の出雲市が息を吹きかけ、3 回目の上田市でに大きな炎にし、その勢いが大きくなり隣に飛び火した形で次回につながり、さらに大きくなっていくと期待したい。



写真 17 上田城址

天守はなく中に真田神社あり。



写真 18

真田丸で盛り上がる上田電鉄。



写真 19 翌日訪れた小諸城址

上田合戦の舞台。現在は公園。



写真 20 風穴あるとこ名湯あり

温泉巡りも旅の楽しみ。